

湖南市水道ビジョン 目次

第1	章	湖南市水道ビジョン(改訂版)	
1.	1	- - 改訂の趣旨 ····································	2
1.	2	計画期間と目標年次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1.	3	位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1.	4	構成	4
第2	章	湖南市水道事業の概要	
2.	1	湖南市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
2.	2	湖南市水道事業の沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
2.	3	湖南市水道事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
۷.	J	が、	O
第3	音	湖南市水道事業の現状と課題	
43 O			
3.	1	水需要の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
3.	2	安全な水道水の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
3.	3	安定的な水道水の供給・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
3.	4	運営基盤 ・・・・・・・・・・・・・・・・	23
3.	5	環境保全・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
		M E V	
第4	章	基本理念と施策目標	
4.		+++	30
→.	1	基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30

第5章 施策目標と具体的施策

6. 2

5.	1	安全で安心できる水道・・・・・・・・・・・	36
5.	2	安定的かつ災害に強い水道 ・・・・・・・・	38
5.	3	健全な経営の水道 ・・・・・・・・・・・	42
5.	4	市民に信頼される水道・・・・・・・・・・・	47
5.	5	環境にやさしい水道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
5.	6	多文化共生の水道 ・・・・・・・・・・・・・	51
第6	章	湖南市水道ビジョンのレビュー	
6.	1	計画達成状況の評価及び公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53

湖南市市民憲章

平成17年11月2日制定

を定めます。に満ちた、ゆたかで創造的なまちをつくるために、この憲章家し、先人が築いてきた文化や歴史に感謝して、活気と希望愛し、先人が築いてきた文化や歴史に感謝して、活気と希望

一、美しい水と緑を大切にし、

思いやりのあるまちをつくります。 一、たがいの人権を認めあい、

一、ゆたかな歴史を重んじ、安ともが健やかに育ち、一、子どもが健やかに育ち、

香り高い文化のまちをつくります。

一、社会の規律を守り、

第1章

湖南市水道ビジョン(改訂版)

- 1.1 改訂の趣旨
- 1.2 計画期間と目標年次
- 1.3 位置づけ
- 1.4 構成



第1章

湖南市水道ビジョンの改訂にあたって

1.1 改訂の趣旨

本市の水道事業は、昭和31年の通水を開始以来、拡張事業を重ね、生活環境の向上や産業の 発展を支えてきました。

水道事業は、地方公営企業の規定に基づき独立採算を基本に事業経営を行っており、その経費が 最終的に水道使用者の料金によって負担されることに鑑み、「最小の経費で最大の効果」を生み出す ことにとどまらず、常に企業としての効率性を追求することが義務づけられています。

また、一方では人口減少、節水機器の普及、景気の低迷等の影響により水需要が減少し、料金収入が増加しない中、拡張の時代に構築した社会基盤である水道施設の多くが老朽化し更新時期を迎えております。ライフラインとして水道が機能維持し向上していくためには、ハード面のみならずソフト面からも再構築する必要が迫られており、需要者と一体となって安定した維持可能な水道事業について見つめ直し、着実に実行していくべき時がきています。

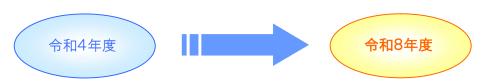
これらの社会的背景に対して積極的に取り組むためにも、本市は平成20年度に「湖南市水道ビジョン」を策定し、平成25年に改定を行い、社会情勢の変化に対応した事業運営の課題を克服して利用者とともに歩み続ける水道事業であることを目指してきました。

このたび、この水道ビジョン改訂から10年経過したことから、施設や数値目標について見直しを行いました。

今後も安心で安全な水を供給することを最大の使命として、事業経営にあたっていきたいと考えています。

1.2 計画期間と目標年次

今後、企業庁に受水施設(朝国、菩提寺、正福寺)を移管するため、令和4年度から令和8年度を目標とした5年間を計画期間とし、計画給水人口は、53,408人、計画給水量は、24,080m³/日と定めます。



計画給水人口: 53,408 人 計画給水量: 24,080m³/日



1.3 位置づけ

湖南市水道ビジョンは、本市上位計画である総合計画をはじめ、下記に示す行政改革行動計画や 地域防災計画などとの整合を図りつつ、国の提唱する水道ビジョンの方針に沿って策定しています。

今後、個別計画として具体化を検討するとともに、財政状況や水道利用者のニーズ、社会情勢などの変化を踏まえ、定期的な見直しを図ります。



1.4 構成

本ビジョンは以下の流れで構成されています。

第1章 湖南市水道ビジョン(改訂版)

改訂の趣旨、計画期間と目標年次、位置づけ



第2章 湖南市水道事業の概要

湖南市水道事業の成り立ちや特徴



第3章 湖南市水道事業の現状と課題

湖南市水道事業の現状と、抱えている問題点の抽出



第4章 基本理念と施策目標

湖南市水道事業が目指す将来の姿

基本理念 : 市民の信頼とともに歩む湖南の水道



第5章 施策目標と具体的施策

将来像に向けた具体的な施策群

安全・安心「安全で安心できる水道」 安定「安定的かつ災害に強い水道」 持続「健全な経営の水道」

環境「環境にやさしい水道」

サービス「市民に信頼される水道」 国際「多文化共生の水道」



第6章 湖南市水道ビジョンのレビュー

施策の進捗状況や目標達成度の評価、推進体制

第2章

湖南市水道事業の概要

- 2.1 湖南市の概要
- 2.2 湖南市水道事業の沿革
- 2.3 湖南市水道事業の概要



第2章 湖南市水道事業の概要

2. 1 湖南市の概要

湖南市は、平成16年10月に旧石部町と旧甲西町の 2町が合併し、誕生しました。本市は、滋賀県の南部に 位置し、東部から南部にかけて甲賀市、北東部には竜 王町、北部から西部に野洲市、栗東市と隣接していま す。行政区域内面積は、東西9.7km、南北12.3km、 面積70.40km²となっています。

地形は、南北に阿星山系、岩根山系を擁し、中心部 を琵琶湖に注ぐ最大の河川である野洲川が東西を横断 し、野洲川付近一帯に平地が開けた、水と緑に囲まれた 地域です。

名神高速道路をはじめとする交通の利便性から、県 内最大の工業団地である湖南工業団地が集積し、また、 国道1号や JR 草津線の交通基盤の利用により、京阪神 都市圏への通勤通学に便利な立地として、住宅地開発 が進みました。



さらに、市内には「湖南三山」と称される常楽寺、長寿寺、善水寺のほか、天然記念物のウツクシマ ツ自生地など、自然環境や歴史、文化遺産に恵まれたまちです。

2.2 湖南市水道事業の沿革

湖南市水道事業の前身は、旧甲西町で昭和31年4月妙感寺の簡易水道に始まり、昭和38年4月 には上水道認可を取得し、甲西町全域に上水道として給水が開始されました。

旧石部町は、昭和31年度に簡易水道が完成したのが始まりです。その後、昭和37年4月に上水道 認可を取得し、石部町全域が上水道事業に変更されました。

両町とも拡張、変更を繰り返し、平成16年度の2町合併により、計画給水人口59,600人、計画給 水量35,000m³/日の上水道事業として創設認可を取得しております。



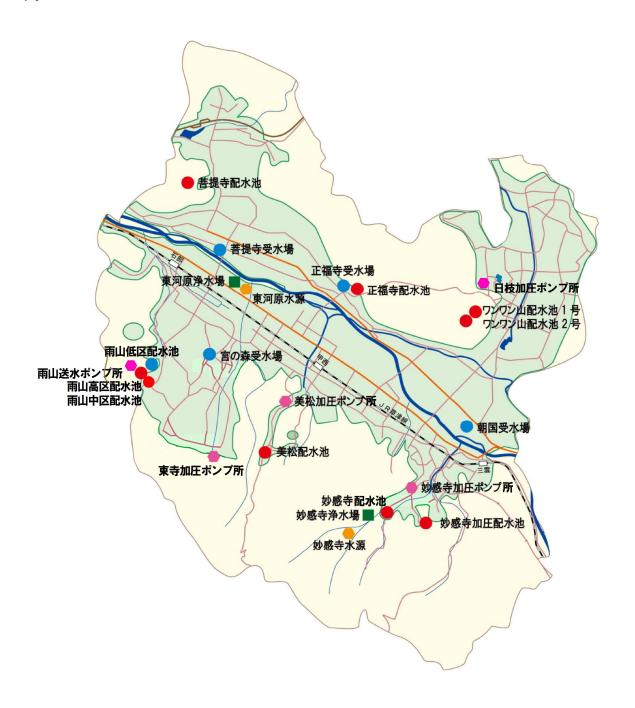
水道事業の沿革

年度	旧甲西町	旧石部町
昭和 31 年~	S31 年度 簡易水道 創設 ■ 計画給水人口:9,100 人 計画-人-日最大給水量:150 以次/人·日 計画-日最大給水量:1,498m³/日	S31 年度 簡易水道 創設 計画給水人口:10,000 人 計画一人一日最大給水量:300 以次/人·日 計画一日最大給水量:3,000 m³/日
昭和 41 年~	S47 年度 第 1 次拡張 計画一人一日最大給水量:300 以次/人·日 計画一日最大給水量:4,200m³/日	計画給水人口:10,000 人 計画一人一日最大給水量:300 パル/人・日 計画一日最大給水量:3,000m³/日 計画一日最大給水量:3,000m³/日 計画一日最大給水量:540 パル/人・日 計画一日最大給水量:540 パル/人・日 計画一日最大給水量:4,450m³/日 計画一日最大給水量:708 パル/人・日 計画一日最大給水量:708 パル/人・日 計画一日最大給水量:8,500m³/日
昭和 51 年~	計画給水人口:30,000 人 計画-人-日最大給水量:657 パル/人・日 計画-日最大給水量:19,700m³/日 計画・日最大給水量:19,700m³/日 計画・人-日最大給水量:518 パル/人・日 計画-人-日最大給水量:19,700m³/日	
昭和 61 年~		
平成 1年~	日2 年度 第 3 次拡張 計画-人-日最大給水量: 607 パル/人・日 計画-日最大給水量: 25,500m ³ /日	
平成 10 年~	計画給水人口:46,000 人 計画一人一日最大給水量:554 以次/人·日 計画一日最大給水量:25,500m³/日	計画給水人口:13,600 人 計画-人-日最大給水量:699 以7/人·日 計画-日最大給水量:9,500m ³ /日
平成 16 年~	H16 年度 湖南市合併創設	計画給水人口: 59,600 人 計画-人-日最大給水量: 587 以北/人·日 計画-日最大給水量: 35,000m³/日
平成20 年~	H20 年度 変更届出	計画給水人口:58,700人 計画-人-日最大給水量:484 以北/人·日 計画-日最大給水量:28,398m³/日
平成24年	H24 年度 変更届出	計画給水人口:54,890人 計画-人-日最大給水量:439 以北/人·日 計画-日最大給水量:24,110m³/日

2.3 湖南市水道事業の概要

湖南市の水道事業は、計画給水人口 54,890人、計画一日最大給水量 24,110m³/日の施設規模です。普及率は99.9%と概ね市内全域に供給できる体制となっています。

本市は、滋賀県湖南水道用水供給事業(以下、湖南用水)から、計画給水量の約 95%を受水し、各受水施設から配水池に送水後給水しています。また、自己水源は東河原地区の3 箇所の深井戸と妙感寺地区の表流水から取水しています。浄水方法は、深井戸が凝集沈澱、急速ろ過処理(除鉄・除マンガン処理)、表流水は凝集沈澱、急速ろ過処理を行い、それぞれ塩素消毒後、配水しています。





━【水源】

名 称	種別	計画水量 (㎡/日)
東河原水源	深井戸	1,300
妙感寺水源	新川表流水	1,500
合 計		2,800

■【浄水施設】

名	称	浄水処理方法	計画浄水処理量 (㎡/日)
東河原	浄水場	急速ろ過	1,300
妙感寺	浄水場	急速ろ過	1,500
合 함	 		2,800

●【受水施設】

湖南用水(浄水受水)

名称	構造	容量 (㎡)
宮の森受水場	RC	1,500
菩提寺受水場	PC	1,300
正福寺受水場	RC	1,080
朝国受水場	PC	4,500
合計		8,380

●【配水池施設】

名称	構造	容量 (m³)	系列
雨山中区配水池	RC	616	中区
雨山高区配水池	SUS	800	高区
雨山低区受水池(配水池)	PC	3,000	低区
菩提寺配水池	PC	2,830	菩提寺系
正福寺配水池	PC	3,800	正福寺系
美松配水池	SUS	303	美松系
ワンワン山配水池1号	SUS	1,400	朝国系
ワンワン山配水池2号	PC	3,000	
妙感寺加圧配水池1号	PC	400	妙感寺
妙感寺加圧配水池2号	PC	400	加圧系
妙感寺受水池(配水池)	PC	940	妙感寺系
合計		17,489	

●【ポンプ施設】

名 称
雨山送水ポンプ所
東寺加圧ポンプ所
美松加圧ポンプ所
妙感寺加圧ポンプ所
日枝加圧ポンプ所



雨山低区受水池(配水池)



湖南市の鳥:ウグイス

第3章

湖南市水道事業の現状と課題

- 3.1 水需要の動向
- 3.2 安全な水道水の確保
- 3.3 安定的な水道水の供給
- 3.4 運営基盤
- 3.5 環境保全



第3章

湖南市水道事業の現状と課題

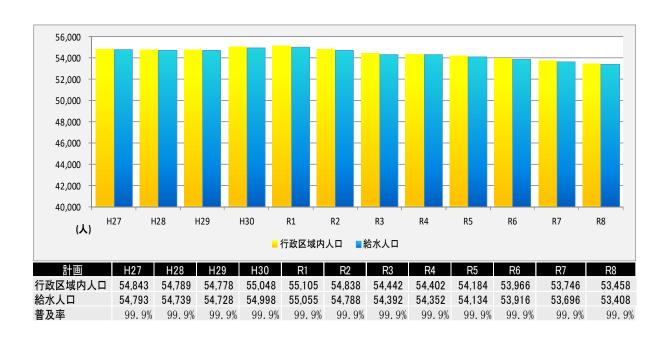
3.1 水需要の動向

本市の行政人口は減少傾向にあり、給水人口も同じく減少傾向にあります。また、一日最大給水量についても、利用者の節水意識の向上や経済の低迷等を要因とした伸び悩みがみられます。

このような水需要の低迷を受け、本市水道事業においては、今後必要に応じて定期的に水需要の見直しを図り、今後はこれまでの設備投資の施策から方向転換し、施設の更新に合わせた施設の適正化・効率化を図ります。

◆給水人口の動向

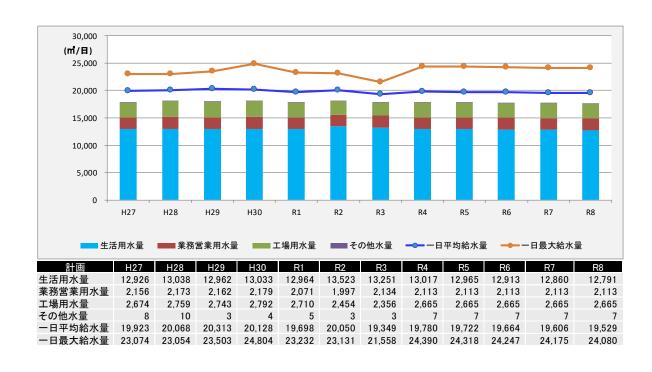
昭和62年には39,212人であった旧石部町と旧甲西町の合計人口は、平成2年には46,093人、平成7年には51,372人と急速に増加してきました。以降増加率は鈍化したものの、合併時平成16年の湖南市の人口は56,463人と増加傾向となっていました。市内には国道1号、国道1号バイパスや名神高速道路といった交通の大動脈が走り、今後も企業進出や宅地開発も見込まれるものの、景気の低迷、人口の減少などにより給水人口は微減傾向になるものと予測されます。





◆水需要の見通し

わが国における水道事業の水需要は、長引く景気の低迷や給水人口の減少、節水意識の高まりや 節水機器の普及など節水型社会の浸透により、減少傾向にあります。湖南市においても、一日平均給 水量は令和2年度には20,050m³/日となり、計画期間最終年次の令和8年度には19,529m³/日へと 微減するものと予測されています。

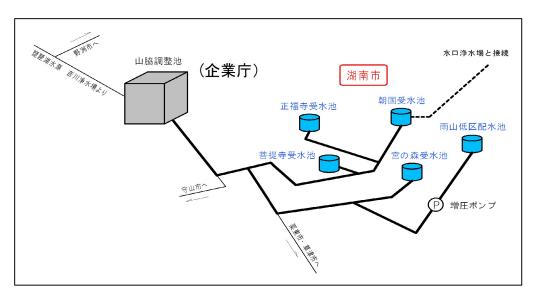


3.2 安全な水道水の確保

◆水源水量

本市は水需要に対応した水量の安定を確保するため、湖南用水からの受水が全体の約95%を占めています。残りの約5%が自己水源系で、東河原水源の地下水と妙感寺水源の表流水から取水しています。



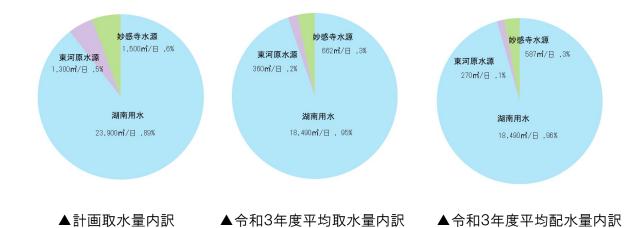


▲ 湖南用水給水系統図



水源別取水量

기	〈源名	計画取水量	令和3年度 平均取水量	令和3年度 平均配水量
企業庁	菩提寺受水池	3,200		
湖南用水	正福寺受水池	7,300		
朝国受水池 宮の森受水池 雨山低区配水池		7,700		
		2,800		
		2,900		
	小計	23,900㎡/日	18,490㎡/日	18,490㎡/日
東河原水源地	深井戸	1,300㎡/日	360㎡/日	270㎡/日
妙感寺水源地 表流水		1,500㎡/日	662㎡/日	587㎡/日
	計	26,700㎡/日	19,512㎡/日	19,347㎡/日



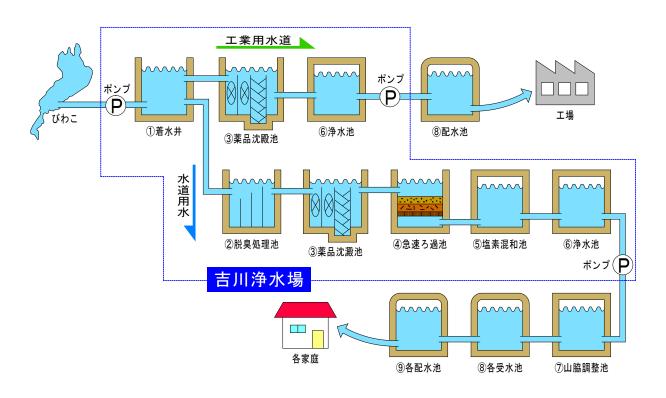
業務指標(水源)

業務指標No. 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
1002						
水源余裕率(%)	[(確保している水源水量/一日最大配水量)-1]×100	19	27	33	36	50

◆浄水処理方法

《湖南用水》

湖南用水は琵琶湖から取水し、吉川浄水場で下図の工程で浄水処理されています。 (企業庁HPより)

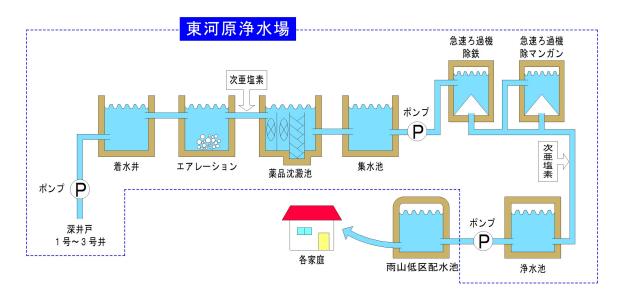


O# 1 11	© BV to the TD VI		05
①着水井	②脱臭処理池	③薬品沈澱池	④急速ろ過池
水位や水量を調整する。	原水の異臭を粉末活性	薬品を注入し 攪拌し、	水を砂の層で急速ろ過し
	炭に吸着させる。	浮遊物を凝集させて沈	て浄化する。
		澱させる。	
⑤塩素混和池	⑥浄水池	⑦調整池	⑧受水池 ⑨配水池
次亜塩素酸ソーダで消	消毒した水を貯めてお	各市町の配水池へ送る	各家庭へ送る水を貯め
毒し、衛生的で安全な水	< °	水を貯めておく。	ておく。
にする。			



《東河原水源》

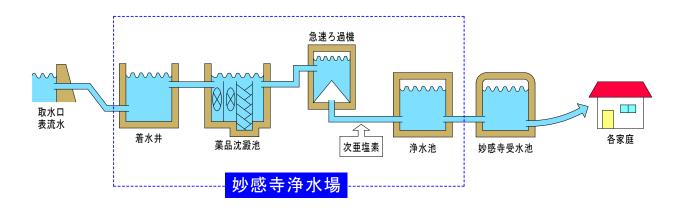
深井戸3井から取水しており、自然由来の鉄・マンガンが比較的高いため、エアレーションの後、凝集沈澱処理、除鉄・除マンガン処理を行っています。





《妙感寺水源》

表流水を取水した後、凝集沈澱処理→急速ろ過処理を行っています。原水は、周囲を山で囲まれており人的な汚染は少ないですが、降雨時には濁度が急上昇するため、濁度が15度以上になった場合は取水を停止します。









◆水質管理

本市では、いつでも利用者が安心して水道水を利用していただけるよう、水の安全を確保するために毎年、検査項目や検査回数、検査地点を定めた水質検査計画を策定・公表し、水質管理を行っています。また、水質検査計画に基づき、受水系統ごとに検査地点を設け、法令で定められている色、濁り、消毒の残留効果を毎日検査しています。受水している湖南用水では、自己水質検査機関で水質検査を行っています。雨山低区配水池と朝国受水池では、毎日検査の項目を自動水質計器により 24 時間連続監視し、危機管理に努めています。

今後とも、環境の変化や新たな水質基準の改正への対応など、臨機応変に取組む必要があります。



▲ 水質検査状況



▲ 水質検査状況(毎日検査)



▲ 監視機器(生物センサー)

業務指標(水質状況)

業務指標No, 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
	[1-(年間残留塩素最大濃度-残留塩素水質管理目標値)/残留塩素水質管理目標値]×100	130	120	150	130	100

3.3 安定的な水道水の供給

◆施設の老朽度

下表に示すとおり、市内全域に 380kmを超える管路が布設されていますが、1960 年~80 年代に 布設された管路延長は約 120kmもあり、今後膨大な管路の更新が課題といえます。

現に管路の老朽化による漏水事故や管破損事故が起こっています。1件の事故が、その下流域の 給水すべてに影響を与えるため、老朽管の計画的な管路更新で対応する必要があります。本市として も下水道整備や道路改良などの他事業と併せて同時施工し、コストの縮減を行いつつ老朽管路の更 新に努めています。

経営環境が厳しさを増す中で、今後、老朽化施設の更新を行うに当たり、まず施設の老朽度について十分な調査を行い、更新計画の策定や、適切な維持管理により施設の延命化を図ることで、老朽施設の計画的更新が可能になります。また、水需要の伸び悩みを受けて、老朽施設の更新を行う際には施設能力について十分な検討を行い、縮小化などによる規模の適正化を図ることが必要です。



年代別管布設状況

<km>

	1980年代まで	1990年代	2000年代	2010年代	2020年代	計
導水管	0.3	0.5	0.2	0.1		1.1
送水管	10.0	5.1	2.5	2.2		19.8
配水管	110.1	114.9	91.9	46.9	4.5	368.3
計	120.4	120.5	94.6	49.2	4.5	389.2

(老朽化度)

業務指標No, 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
2102 経年化設備率 (%)	経年化年数を超えている電気・機械設備数/電気・機 械設備の総数×100	50	50	50	50	53
2103 経年化管路率(%)	法定耐用年数を超えた管路延長/管路総延長×100	18	20	20	22	19
2104 管路の更新率(%)	更新された管路延長/管路総延長×100	0.06%	0.89%	0.30%	0.18%	0.54%



◆施設の耐震性

滋賀県内では20数本の活断層が確認されているほか、周辺の府県にも大地震の震源地となりうる活断層があります。県では、大きな被害を及ぼす地震として、複数ある想定の中から特に南海トラフ巨大地震を想定して地域防災計画を策定しています。

湖南市地域防災計画においては南海トラフ巨大地震に加えて琵琶湖西岸断層帯を震源とする地震を想定しており、これらの地震が発生した場合、最大震度は6強と想定されています。

本市の水道施設は受水が大きく占めているため、受水池や配水池施設が多く、16箇所も整備されています。また、野洲川左岸に主配水系統の配水池が少なく、災害時に左岸への緊急対応が難しい状況です。合併に伴い配水区域の一体化を図り、地形的特徴を生かした水融通機能の備えが必要です。

現況施設の耐震率は、令和3年度末地点で配水池56%、管路2% に留まっており、これまで水需要の増加対応や普及率向上を優先的に取り組んできた背景もあり、水道施設の耐震化が思うように進んでいない状況です。自己水源の浄水場1箇所(東河原水源地)については、平成23年度に施設の耐震化が完了しています。今後は水質事故、震災等の対応マニュアルの整備を行い、災害時応急体制の強化を図る必要があります。



受水池・配水池(現状と計画)

	現	状	Ī	計画	
名 称	構造	容量 (m³)	計画	構造	容量 (m³)
宮の森受水場	PC	1,500	耐震化	補強	1,500
菩提寺受水場	PC	1,300	耐震済	PC	1,300
正福寺受水場	RC	1,080	耐震化	補強	1,080
朝国受水場	PC	4,500	耐震対応	PC	4,500
雨山配水池	RC	616	廃止		
雨山低区受水池(配水池)	PC	3,000	耐震済	PC	3,000
菩提寺配水池	PC	2,830	耐震済	PC	2,830
正福寺配水池	PC	3,800	耐震済	PC	3,800
雨山高区配水池	SUS	800	耐震済	SUS	800
美松配水池	SUS	303	耐震済	SUS	303
ワンワン山配水池1号	SUS	1,400	耐震済	SUS	1,400
ワンワン山配水池2号	PC	3,000	耐震済	PC	3,000
妙感寺加圧配水池1号	PC	400	耐震済	PC	400
妙感寺加圧配水池2号	PC	400	耐震済	PC	400
妙感寺受水池(配水池)	PC	940	廃止		
配水池合計		17,489			15,933
♡좌류된다 1001만	WZ / 4 0 0 4	F 13 17/2 4	74.佐甘洪一		5-4-r *



※耐震対応とは、1981以降(1981年以降の建築基準では、地震対応可能となっている。)の施設である。

業務指標(耐震化状況)

業務指標No, 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
2001 給水人ロー人当たり 貯留飲料水量(2/人)	[(配水池総容量(緊急貯水槽容量は除く)×1/2+緊急 貯水槽容量)/給水人口×1000	232	232	233	235	206
2004 配水池貯留能力(日)	配水池総容量/一日平均配水量	0.87	0.89	0.87	0.90	1
2205 給水拠点密度 (箇所/100㎢)	配水池·緊急貯水槽数/給水区域面積×100	52	52	52	52	25
2207 浄水施設耐震率(%)	耐震対策の施されている浄水施設能力/全浄水施設 能力×100	46	46	46	46	38
2209 配水池耐震施設率(%)	耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量×100	43	43	44	44	55
2210 管路の耐震化率(%)	耐震管路延長/管路総延長×100	6	7	7	7	14



3.4 運営基盤

◆経営基盤の強化

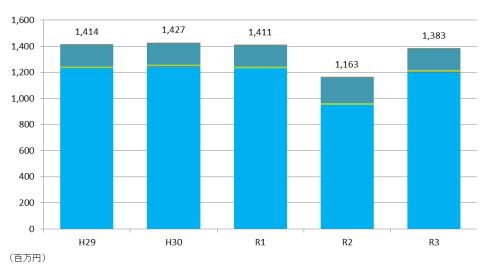
本市における給水区域内人口は減少傾向にあり、給水量も今後微減する傾向となっています。この 結果、事業経営の根幹となる料金収入も水需要の減少に伴い収益も減少していく状況が予測されています。

一方で、業務の効率化を図るとともに民間委託を推進し、費用の圧縮に努めています。

今後は老朽施設の大量更新を控えており、市民のライフラインとしての水道事業を安定経営するためにも、業務の効率化と経営の改善は事業運営上の重要な課題です。

水道事業収益



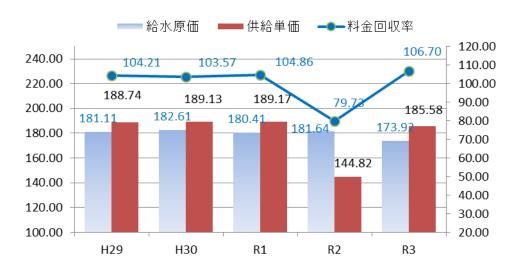




業務指標(経営指標)

業務指標No, 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
3001 営業収支比率(%)	(営業収益-受託工事収益)/(営業費用-受託工事費用)×100	102	106	86	107	118
3002 経常収支比率(%)	(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)× 100	105	106	86	107	111
3003 総収支比率(%)	総収益/総費用×100	102	106	86	107	111

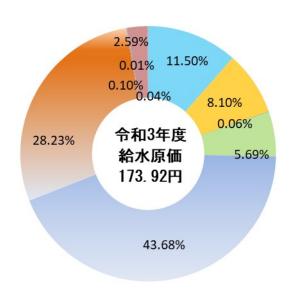
供給単価・給水原価・料金回収率



令和3年度給水原価内訳



■特別損失







(R4現在)

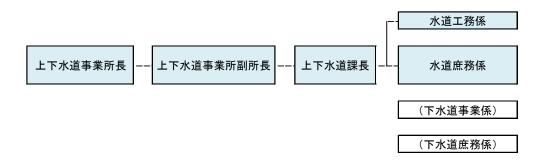
業務指標(料金)

業務指標No, 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
3013 料金回収率(%)	供給単価/給水原価×100	104	105	80	107	103
3014 供給単価(円/㎡)	給水収益/有収水量	189.13	189.16	144.82	185.59	174.38
3015 給水原価(円/㎡)	(経常費用-受託工事費-特別損失-長期前受)/有収水量	182.61	180.41	181.64	173.92	168.89

◆業務体制

本市では平成 24 年に上下水道部を新設し、その後組織改編により平成 29 年に上下水道事業所となりました。上下水道課内には水道工務係、下水道事業係、また上下水道それぞれの 庶務係を配置し、水道事業、下水道事業それぞれの効率化を進めています。

また、水道施設の管理運営や維持修繕のほか、水道料金の徴収、量水器の検針などを民間企業に外部委託しています。







業務指標(効率化)

業務指標No, 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
3007 職員一人当たり 給水収益(千円/人)	給水収益/損益勘定所属職員数/1000	177,568	168,147	168,168	171,700	59,044
3008 給水収益に対する 職員給与費の割合(%)	職員給与費/給水収益×100	4.57	4.83	4.87	4.61	9.78
3019 施設利用率(%)	一日平均給水量/一日給水能力×100	58	56	63	61	62
3020 施設最大稼働率(%)	一日最大給水量/一日給水能力×100	71	66	73	68	71
3105 技術職員率(%)	技術職員総数/全職員数×100	57	57	57	57	43
3106 水道業務経験年数度 (年/人)	全職員の水道業務経験年数/全職員数	8	6	5	5	11



民間外部委託

【水道施設維持管理業務委託】

·運転管理業務

水道施設の運転管理、浄水施設の濁度管理、 残留塩素濃度管理及び配水設備水量(水圧)管理

·保守管理業務

各施設の巡回点検、各設備の定期点検、各施設内の清掃及び除草、 簡易な故障修理・施設台帳の整理・現地対応及び立会

·水質管理業務

毎日水質検査、定期水質検査、水質検査計画の作成支援及び生物センサーの管理、高濁度時対応

·汚泥処理業務

汚泥脱水作業及び池内清掃

·管路管理業務

管路パトロール及び貯蔵品管理

·緊急時処理業務·開始

異常通報対応、緊急水質分析及び災害 事故漏水などの対応

【水道料金等収納等業務委託】

·受付業務

受付窓口、電話対応

·検針業務

量水器の検針、給水開始、休止作業

·精算·収納業務

水道料金算定、徵収、会計処理

·滞納整理業務

滞納整理

- ·給水停止業務
- ·給水開始、休止業務
- ·経理補助業務

3.5 環境保全

◆環境保全への貢献

国際社会において人口の急増問題や気候の変動、環境の汚染などが要因となり、地球上で利用可能な水が減少し、社会に不可欠である安全な水の価値が高まっています。水の世紀といわれる21世紀においては、国際的にも人類の存在基盤である安全な水を確保するため、水環境の保全、総合的な水管理の必要性が指摘されています。

本市水道事業においても、適切な施設運用により、限りある水資源を有効に利用して、環境に配慮した意識の向上を図ることが必要です。

業務指標(環境保全)

業務指標No, 業務指標名	指標算式	H30	R1	R2	R3	R2公表 全国
4001 配水量1㎡当たり 電力消費量(kWh/㎡)	全施設の電力使用量/年間配水量	0.400	0.360	0.320	0.310	0.390
4002 配水量1㎡当たり 消費エネルギー (MJ/㎡)	全施設の総エネルギー消費量/年間配水量	1.43	1.24	1.13	1.13	1.40
4006 配水量1㎡当たり 二酸化炭素排出量 (g・CO2/㎡)	総二酸化炭素(CO2)排出量/年間配水量×10 ⁶	103	89	82	81	124
3018 有収率(%)	有収水量/給水量×100	89.5	90.0	89.8	90.9	87.6

